

授業科目名	卒業論文	教員名	河原国男・渡邊耕二 坂倉真衣・佐々木由喜子 渡邊 裕・松田昭憲 中山 迅・満行知花 城戸佐智子・田上幸雅 山本辰典・山下愛美 劉 一杰	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	必修
					小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	RON401	配当年次	4年通年	情報処理士		
授業形態	演習					
単位数	4単位					
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	卒業論文指導教員の指導の下、学生は自分の専攻する研究分野の特定の研究課題について、自分で考え、必要な知識・資等を収集・整理・解析し、その上で他者に理解できるように論文を作成すると同時に、口頭発表するための知識・情報・技術等を修得することを目標とする。そのため、卒業論文課題に関連する情報・文献検索方法等を知り、それらをワード、エクセルやプレゼンテーションソフトを用いて解析・整理し、ついで液晶プロジェクター等を用いて口頭発表する方法・技術を修得する。また、発表内容を文章として正確に記述する技術の修得、卒業論文発表会等において、与えられた時間内に口頭発表する技術と質疑応答における対応能力・知識を修得する。最後に卒業論文として取りまとめ、文章化する技術等を修得する。					
到達目標						
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育などに関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「3. 教育者として、十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	卒業論文は、教育学部における課題探求型教育の集大成として位置付けている。学生は、配属された教員研究室において、自分が実際の教員・保育士となり、関連する専門の研究会等で発表や論文を投稿・掲載されること等を想定し、発表テーマの決定、目的、発表のための方法、結果、考察、参考となった資料・文献検索などの一連の流れを学修し、これらを卒業論文として取りまとめ、さらに口頭発表するために発表要旨を書くとともに、実際に卒業論文発表を行い、口頭発表能力、プレゼンテーション能力、質疑応答などを学修する。					
授業計画	<p>【第1週～第3週】（指導教員の決定） 卒業論文指導教員を決定し、研究テーマを選択・決定する。</p> <p>【第4週～第14週】（卒業論文研究開始） 選択・決定した卒業論文研究テーマに沿って研究方法等を検討し、各自プレゼンテーションするために必要な情報収集・整理・計画するなど、研究を進める（討論、指導などを含む）。</p> <p>【第15週】（卒業論文中間報告会） 各自教員研究室ごとに中間発表会（ポスター発表形式）を行い、進捗状況や卒業研究テーマについて、追加として必要な事項を討論・確認する。</p> <p>【第16週～第22週】 卒業論文の取りまとめを念頭にした計画を再調整し、研究を進める（情報収集・関係論文講読、教員の指導などを含む）。</p> <p>【第23週～第28週】（卒業論文作成） 卒業論文の取りまとめにむけて、教員研究室内で卒業研究の進捗状況を確認・プレゼンテーションする。ついで、具体的に卒業論文作成、プレゼンテーション方法の再確認、発表要旨などを作成する。</p> <p>【第29週、第30週】（卒業論文発表会） 研究成果の発表、卒業論文の提出</p> <p>※十分な卒業論文の教育研究成果を上げるために、<u>受講生は指導教員との「合計で60時間以上」のコンタクトタイムを確保すること。コンタクトタイムを60時間以上確保できた受講生について卒業論文の発表と提出を認める。</u></p>					

授業外学修時間の確保について	卒論指導教員の指示に従い、事前・事後学習を週4時間以上必ずすること。
学生に対する評価	授業の到達目標を達成したかを総合的に評価するため、卒業論文に対する取り組み等（50%）（指導教員による評価）及び口頭発表に関わる評価（50%）（発表要旨・口頭発表・質疑応答等）を勘案して、別紙の評価基準に沿って総合的に評価する。
テキスト	卒論指導教員の指示に従って、購入あるいは図書館等で貸し出し使用すること。
参考書・参考資料等	卒論指導教員の指示に従って、購入あるいは図書館等で貸し出し使用すること。
担当者からのメッセージ	卒業論文のテーマは、指導教員と良く相談の上決定し、主体的に取り組むこと。特に、卒業論文は本学部の教育カリキュラムにおける教育・研究の集大成として位置づけられた講義科目である。すなわち、教員・保育士となるために学んできた教養基礎科目（忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳ）、教養科目や専門基礎・専門科目で修得してきた知識・情報を利活用して、指導教員の指導の下、特定のテーマについて、自分で取りまとめ、最終的には他者に対して説得力のある卒業論文を作成し、さらにプレゼンテーションにおける発表と質疑応答等についてしっかりと学んで欲しい。
オフィスアワー	専任教員(卒業論文指導教員)のオフィスアワーを参照のこと。
備考	卒業論文の着手する条件は、履修規定第21条及び申し合わせに規定されている通りである。条件を満たさない学生は卒業論文に着手できないため、自動的に卒業延期となるので、注意すること。